

平成 22 年度ふるさと NAGANO 応援団意見交換会 要旨

1. 日 時 平成 22 年 11 月 26 日 (金) 15 時 30 分から 17 時 30 分
2. 会 場 都道府県会館 4 階 410 会議室
3. 内 容 長野市全般について
4. 出席者 別紙出席者一覧 (別紙) のとおり
5. 発 言 以下のとおり
 - 地上デジタル放送の周波数で放送に使用しないエリアを地域活性化のために使う、ホワイトスペース特区という総務省が推進している政策を是非長野市にも取り組んでいただきたい。今放送に使っていない帯域をある地域で限定的に使用する。例えば善光寺のその歴史的な言い伝えや七福神のルート図、寄ってほしいそば屋や酒屋等、全部揃えて豊富な情報を観光客に提供する。携帯をお持ちでない方のため、街中のどこかに電子掲示板を置いておけばそれを見ながら観光することができる。外国の方に対し、外国の言葉で表示することもできるし、外国人誘致にも有効である。これまで周波数は有限の資産ということで、一般に民間レベルに開放するというアイデアはなく、画期的な話であり、活用しない手はない。長野市は歴史的なものが豊富であり、お酒にしても、食べ物にしても、素晴らしいものがあるのどこにあるのか現在は分かりにくいのだが、そういったものを観光客に情報提供するというのが一つのアイデア。次に、商店街や大学、観光等を組み合わせると、色々なビジネスが見込める。今回、総務省はこの実施によって 9 兆円ぐらいの経済効果を見込んでいる。これから取り組んでいくに当たっては、長野市には総務省の出先機関である信越総合通信局があり、出先機関が近いというのは非常に有利らしい。そういう意味で、長野市は良いポジションにあると思う。

外国を含む様々なところから観光客が来られるが、付加価値のある情報を提供することによって更なる観光客誘致が見込まれる。今まで素通りしていたような商店街等にもお客が立ち寄るようになる。併せて、このビジネスを推進していくとなると、ビジネスチャンスも広がる。また、信州大学教育学部・工学部の若い人たちのアイデアを活用し、色々なことを実験してみたらいいのではないかと。ソフト面で付加価値を追加し、魅力を何倍にも増大できるのではないかと思う。
 - ふるさと納税、ながの夢応援基金は非常にいいことだと思う。育ててもらった地域に対し、応援したいと思う。ただ、あまり宣伝していないせいか、実はあまり皆さん知らない。書類の手続き等、皆知らない。もっと宣伝したらいいのではないかと。
 - 講演等で地方を回るついでに観光地を見てみると、山奥の街に行っても外国人の観光客が多い。特に中国・韓国・アメリカ・ヨーロッパ等から多く来るが、海外からの観光客が多いところはパンフレット作成等色々努力している。長野市ももっと取り組んでいただきたい。
 - 戸隠が混んでいるという話を聞いて今月の 6 日頃、大昌寺というお寺の奥にある、鬼女紅葉の洞窟に行ってみた。景色が良いが、誰も人がいない。どうして宣伝しないのか。鬼女紅葉伝説は歌舞伎にもなっているし、「紅葉狩」として有名な話である。パワースポットであるが、誰にも会わず、静かに紅葉狩りができてしまうという、誠に残念な話である。パワースポット巡りの一つとして、そちらに回ってもらえばいいのではないかと。もう少しそういう案内があってしかるべきと思う。柵の化石館も見た。非常に内容はいいが、学芸員は一生懸命やっているが、客が少ない。化石館は理系であるし、小・中学校ぐらいで習う「紅葉狩」の話は文系であり、そういったセットで宣伝になるし、パワースポットで戸隠神社から鬼女紅葉の伝説の地へのコースを開発してはいいか。
 - 戸隠の大昌寺では、昔から春と秋にお寺を公開して寺子屋をやっており、すごく頑張っている人も集まっている。民間の人が頑張っているのだが、お坊さん一人の力だけではなかなか外に広まっていけない。是非長野市と提携して一緒にやれば、面白いものが生まれるのではないかと思う。
 - 普段、半分は外国の方とお付き合いであり、是非ふるさと NAGANO 応援団の英語版の名刺が欲しい。毎日海外の大使館の方等とお会いし、個人的に長野のことを PR しており、今年は特に毎月

1回色々な方を長野にお連れしている。英語に置き換えるだけだし、簡単なことだと思う。作っていただければ、活用できる方はたくさんいらっしゃるだろう。あれば何百枚でも配る。

⇒（長野市回答）早急に対応したい。

- ホワイトスペース特区の話は重要、緊急な話だと思う。情報弱者のことを略して「情弱」というが、おそらく今ほど色々な情報が入り乱れて、情報を持っている人といない人の差が露骨に大きい時代はないと思う。情弱の人がとても多く、ごく一部の人が最大限の情報を有している。それは人材を活用するという意味でもったいないことだと思う。例えば田舎に一人で住んでいるおじいちゃんおばあちゃんとか、都市部でも情報の波の中で全く無縁でいる方とか、大量にいると思われる。社会の義務として、情報へのアクセス方法を知っている人が教えるべき。観光客がどこのお蕎麦屋さんが美味しいかすぐ調べられるというのはとても大事なことで、長野市民も例えば最終バスの時間がさっと分かるようなデバイスを緊急に作らないと、高齢社会で一人暮らしの方が増えたりする中で取り残されていってしまうと思う。やさしい社会になることが大事で、観光立市はもちろん大事だが、住んでいる方が毎日安心して暮らせるために情報に接することが重要である。

- 長野と同じオリンピック開催都市でありながら、世界で一番住みやすい都市としてブランド力を獲得しているのがバンクーバーである。長野とどう違うのかというと、現地を訪問して感じたのは、個別の課題が連動して相互に影響を及ぼすようなスキームが組まれている例が多い。

まず、海外に対する発信力では、バンクーバーでは近くにハリウッドがあるということもあるが、海外に発信するためのコンテンツの収録の現場として、テレビや映画、ドラマロケの誘致、映画祭の誘致、クリエイターの育成、特殊な撮影のための規制緩和等、様々あるがそういった努力を都市としてやっている。

長野市には茶臼山動物園があるが、バンクーバーの場合は水族館がある。市民運動が盛んでバックアップしているということもあるのだが、生物多様性に関する教育を行うのと同時に、オーシャンワイズという運動があり、長野であれば野菜などの山に関連した食材になると思うが、生物多様性に配慮した食材であるかどうかの認証を水族館が行う。これに従って、地元の観光資源となるレストランで、メニューにその認証を受けている旨のマークを付けている。都市部で扱っているスーパーの食材についても地元から何キロメートル圏内で取れ、栄養価も高い分、割高であるというフードマイル表示がある。米国資本のウェスティン等のホテルでも、長野であればメトロポリタン等であるが、こういったものに連動している。ホテルのエレベーターのわきに「階段で降りれば何分ぐらいで、エクササイズ効果は何キロカロリーなので、試したら？」といった表示があるなど、ちょっとしたユーモアを交えたものが色々ちりばめられている。またオリンピック開催地なので、ビジネスマンもここに住むと近くにスキー場があり、川でカヤックができるというように、スポーツと経済活動がとてもいいバランスで自然となじんだライフスタイルであるというイメージ戦略がある。

コミュニティの再生については、バンクーバーは治安の良さが断トツである。これは、宿泊してもらおうためのコンテンツ開発、つまり夜遊びが危険でないという状況につながるのだが、これも地元の市民運動で自警団のようなものが形成されているので、ミニスカートをはいた若い女性が深夜0時過ぎでも一人で平気で歩いているという状況が作られている。こういう細かい運動等がすき間を埋める役割を果たして、横に連動していく。

更に、ここは多民族国家で差別が少なく成功している。これはベトナム戦争が起きた時に一定の資産を持っている難民については受け入れを認めるというクレバーな政策を行った結果である。

トータルとして、全体がうまくスキームとして組まれているという印象が非常に強い。スポーツ、魅力的なコンテンツ、それから環境、治安、多民族文化、観光資源。一回観光に行けば住みたいと思わせる力があるので、優秀な方が移民していく。こういった横に連動させていくと面白いことになるのではないかと思う。

- シンプルな疑問だが、4年制大学の誘致とあるが、これは少子化が進んでいく中でペイする算段があって取り組んでいるものなのか。一部現在ヨーロッパで起きている、マイスター、職員育

成では高度な経済活動に脱皮できないので4年制に脱皮させるという、従来ある専門教育を脱皮させるという意味合いの誘致なのか、産業支援・産業振興と人材確保を絡めて、ペイするのかわかりたい。

⇒(長野市回答) 長野市としては昭和40年代からの課題で、現在市内には信州大学の教育学部と工学部、それから清泉女学院大学と長野工業高等専門学校があるが、学生の数は他の市と比較して異常に少ない。市内の大学生は5,000人に満たないぐらいである。金沢や高崎などは1万人以上いる。長野市の人口分布を見ると20歳前後のところはかなり少なくなっている。都市構造で言うと極めて問題がある。確かに大学冬の時代と言われており、特に私立の大学はかなりきつい状態であるが、現在県の短期大学があり、これを4年制に変更してもらうことを県にお願いしている。手元に資料が無いので正確な数字は申し上げられないが、長野市の高等学校卒業生の県外進学がとて高い。東京や東北、名古屋に行くのが当たり前になってしまっている。それぞれの親御さんの負担も大変であり、私どもとしてはできれば県立の4年制大学にしてほしい。そうでなければ、例えば独立行政法人にして長野市も応援をして一緒にやろうということを考えている。

- 現在女性の平均寿命は86歳を超えており、将来のリスクの中で、例えば普通に就職する以外の選択肢、いわゆるキャリアパスがどれだけあるかという点、ほとんどない。例えば九州に、新卒者が大学所在地で起業すると破綻のリスクを避けるため徹底的に支援する事業を実施している大学がある。是非女性のワークライフバランスを考えた経営学をやってはどうか。これは地域のコミュニティビジネスとも密接に関係してくるが、連動させるということを見るとそんな発想もあるのではないかと。

- イメージ戦略をトータルで取り組むことが重要である。現在観光スポットとして取り上げられているところ以外にも素晴らしい場所はいっぱいあり、それを紹介していくべき。私も宣伝しているが、市長がどんどん乗り込んでいって、他にこんな素晴らしいところがあるのでポスターを貼らせてくれと宣伝をして、誘客したらどうかと思う。いいところがたくさんあるのでもったいない。

便利なぐるりん号をよく利用するのだが、市全体のバス経路図は、駅構内の在来線改札口の柱に張ってあるが、ぐるりん号が観光にも便利であることやその時刻表などは表示されていない。それに、表示の場所は、新幹線改札口こそ効果的ではないだろうか。ぐるりん号に乗れば七福神等の観光スポットを回れるんだというような情報をもっとうまく伝えるようにすべき。

イメージ戦略として電気自動車は素晴らしいと思う。電気自動車導入と合わせ、クールビズ、ウォームビズを1年中通して実施する市にしてしまうというように、一つ一つの課ではなくトータルでイメージ戦略を組むべき。デスティネーションキャンペーンも、長野駅にある仮設の紹介所と長野市の観光案内所と別個でやるのではなく、提携して「長野市デスティネーションキャンペーン」という位の意気込みで取り組んでいくべき。

屋代線の自転車乗り込みのテストは、8月1日、2日という夏の一番暑いときに小学生に苦しい思いをさせてやるのではなく、1年間通してやらないと分からない。1年間通してやって、あの辺りは自転車で行けるんだというイメージを作ってしまうべき。トータルでイメージ戦略を立てていくべき。

- 市民会館の問題でも、ある時期が来たら市長がリーダーシップを発揮して進めてもらうのが一番良い。先日、丸山弁三郎(注:第5代長野市長)展を見に行ったが、丸山さんは中央通りの拡張ですごい反対があったがある時に押し切った。時代は違うが、ある時には市長が決断してリーダーシップを発揮してほしい。

(別紙)

1 ふるさとNAGANO応援団について

未来に向かって一層の躍進を願い、市政を応援していただくことを目的に、首都圏で活躍されている長野市に縁のある方々をメンバーとして「ふるさとNAGANO応援団」を設立しています。

メンバーの方々の高度な専門知識、豊かな経験、広い人脈を基に産業振興をはじめとして長野市政全般を応援していただくものです。

年に1回、メンバーと市長との意見交換会を開催し、また必要に応じて長野市内の視察を行うことにより市政に関する様々なご提言をいただいています。

2 ふるさとNAGANO応援団メンバー

(敬称略)

氏名	職業・役職等	出席者
青木 擴憲	株式会社AOKI ホールディングス代表取締役会長	—
荒井 寿光	東京中小企業投資育成株式会社代表取締役社長	—
井浦 秀夫	漫画家	—
猪瀬 直樹	作家、東京都副知事	—
碓井 光明	明治大学大学院法務研究科教授、東京大学名誉教授	—
恩田 乾次郎	株式会社ウイングメディカル代表取締役社長	—
加藤 和年	株式会社ながの東急百貨店顧問	○
金井 政明	株式会社良品計画代表取締役社長	—
北村 晴男	弁護士	—
小島 秀康	国立極地研究所教授	○
齋藤 宣彦	医師	○
眞田 幸俊	慶應義塾大学理工学部准教授	—
佐野 幸男	株式会社協和エクシオ 執行役員NTT 営業本部長	○
島田 博文	コムシスホールディングス株式会社相談役	○
清水 慎一	株式会社ジェイティービー常務取締役	—
鈴木 善統	日本電子計算機株式会社常務取締役	○
高野 登	人とホスピタリティ研究所代表	—
竹元 正美	外務省特命全権大使(査察担当)	○
田中 信義	キャノン株式会社顧問、東北大学特任教授(産学連携推進本部副本部長)	○
鶴田 康則	日本OTC医薬品協会理事長	—
童門 冬二	作家	—
徳永 保	文部科学省国立教育政策研究所長	—
飛田 紀久子	広報アドバイザー、「千曲川草誌」編集・発行	○
永澤 征治	長野朝日放送株式会社特別顧問	○
中村 健	信越化学工業株式会社取締役	○
夏目 雄平	千葉大学大学院理学研究科教授	○
幡野 保裕	郵船クルーズ株式会社顧問	—
服部 信孝	順天堂大学医学部脳神経内科教授	—
花岡 信昭	拓殖大学大学院地方政治行政研究科教授	○
飛田 和緒	料理家	—
松木 則夫	東京大学大学院薬学系研究科教授	—
丸田 義晴	財団法人全国法人会総連合事務局長	○
三神 万里子	ジャーナリスト、キャスター、信州大学経営大学院客員准教授	○
宮林 茂幸	東京農業大学地域環境科学部長	○
持田 澄子	東京医科大学教授	—
山田 真美	作家	○
依田 巽	株式会社ティーワイリミテッド代表取締役会長	—